

第3回 定例会

第62号
2019.10.18 発行

西予市議会だより かけはし

特集

- 平成30年度決算を承認
- 常任委員会ほか視察報告
- 政務活動費報告



かけはしになれる議会、親しまれる議会を目指して。

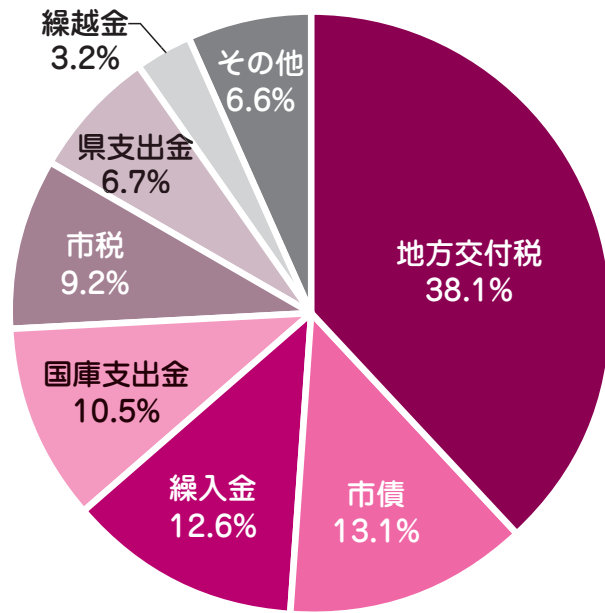


写真：岩上田（城川河窪野）

スマートフォンなどでこの表紙の動画をご覧ください。
YouTubeからの動画配信はこちらから
URL: <https://youtu.be/SKt8u58hHJU>

平成30年度一般会計歳入決算

一般会計歳入決算	
地方交付税	129億5743万円
市債	44億5717万円
繰入金	42億9881万円
国庫支出金	35億5991万円
市税	31億2947万円
県支出金	22億8919万円
繰越金	10億7356万円
その他	22億2563万円
歳入合計	339億9117万円



復興・復旧へ全力で平成30年度決算を認定

令和元年度一般会計補正予算(第2号・第3号)計12億7103万円を増額補正

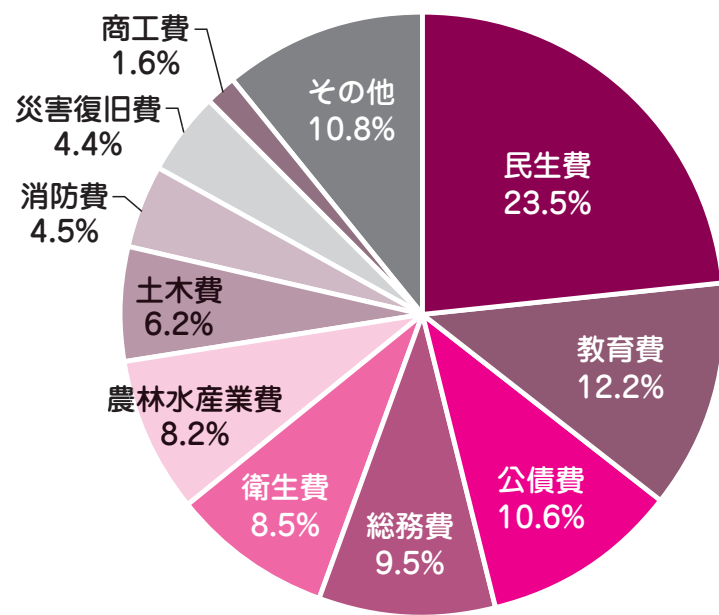
令和元年第3回定例会が、9月2日から10月10日まで39日間の会期で開催され、決算認定や補正予算、条例制定などについて審査を行い、議案52件について、可決・認定されました。

補正予算	決算認定	条例制定・改正	契約	道路認定・廃止	など52議案を可決・認定
11件	12件	10件	2件	2件	

一般会計決算	歳入339億9117万円	歳出324億2623万円
特別会計決算合計	歳入131億6846万円	歳出128億8090万円
公営企業会計決算	総収益51億5860万円	総費用52億3877万円

(経営成績総括より 消費税抜)

平成30年度一般会計歳出決算(目的別)

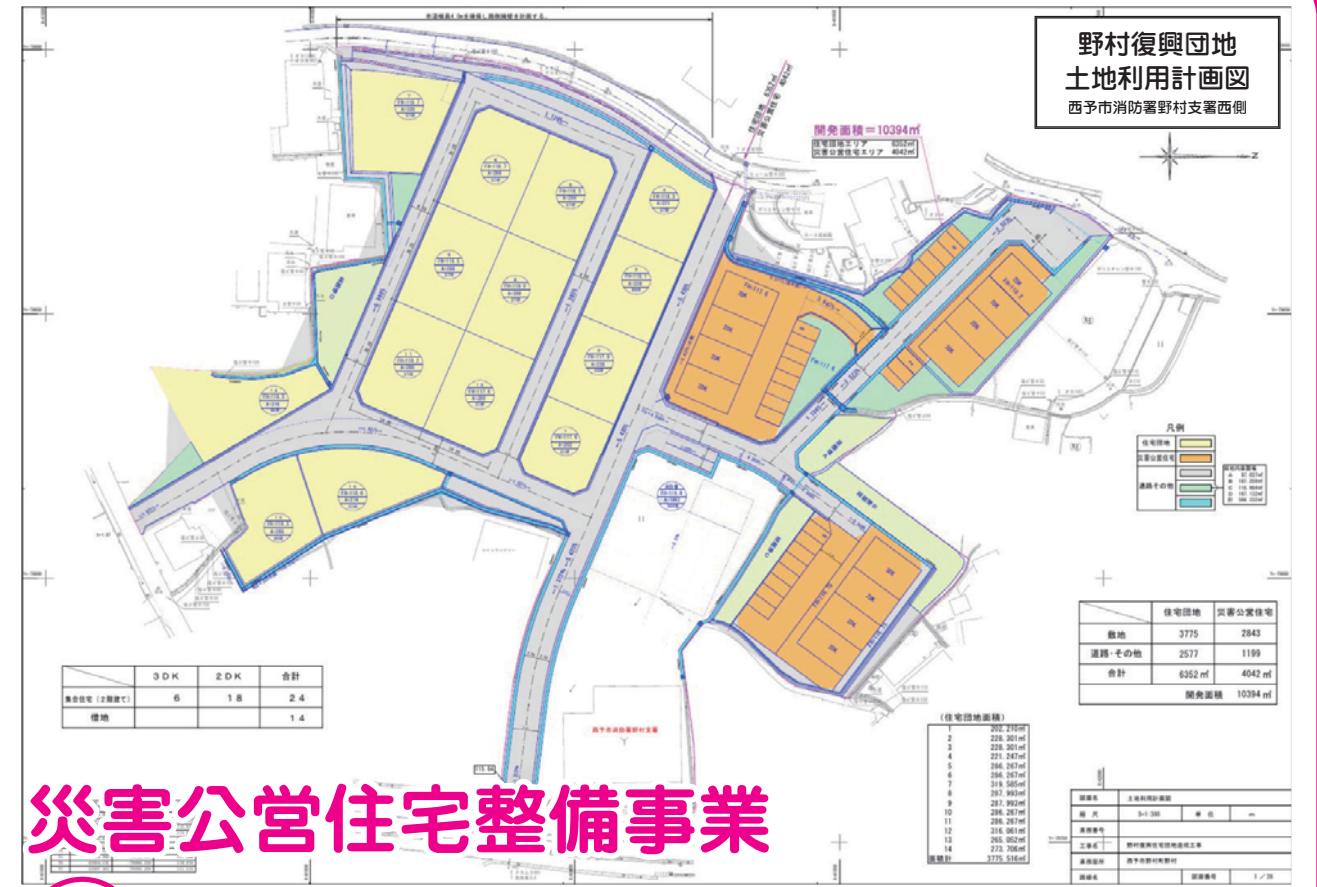


一般会計歳出(目的別)決算	
民生費	76億579万円
教育費	39億6263万円
公債費	34億3107万円
総務費	30億7495万円
衛生費	27億4167万円
農林水産業費	26億4682万円
土木費	20億2481万円
消防費	14億7017万円
災害復旧費	14億2647万円
商工費	5億2980万円
その他	35億1201万円
歳出合計	324億2623万円

一般会計	
歳入総額	339億9117万3942円
歳出総額	324億2623万4488円
差引残高	15億6493万9454円

注)金額は、万円未満切り捨てのため、総数と内訳の合計が一致しない場合があります。平成30年度決算の認定については次号にてお伝えします。

Check



災害公営住宅整備事業

2億7989万円

当初予定していた住宅整備戸数について、ヒアリング等により、30戸から41戸になったため、不足する11戸分の設計委託料及び工事請負費。

議案の審議結果



請願・陳情

請願・陳情は要望等を議会に訴える手段という点では同じですが形式が異なります。
請願とは憲法で保障された国民の基本的権利であり、その方式や処理の手続きなどが定められていますが、陳情は定められていません。請願は紹介議員が必要です。

請願

請願第1号 山田薬師巨石の保存を求める請願書

採択

四国西予ジオパークの見所として、ガイドブックに掲載されており、「ジオサイト整備保全事業」の対象となる旨の回答が行政からでている。貴重なジオパークの見所として保全していくことが必要である。

陳情

陳情第3号 愛媛県道29号地方道宇和野村線（西予市野村町鎌田から西区间）におけるトンネル開設の促進について

採択

鎌田から坂石までの道路は、今まで何度も崖崩れがあり、昨年度程の大規模な崩落が起こる可能性があり、トンネルを掘ることが抜本的な解決になるとのことで県にトンネル開設促進を求めることとした。

陳情第4号 家庭教育支援法の制定を求める意見書について

採択

現代の社会では社会構造が大きく変化し、コミュニティが薄れ周りの関係が非常に希薄化している。孤立した家庭が増えているということが、色々な事件等にも繋がっていると考えられる。家庭倫理が社会倫理の基礎になっていくことは陳情の通りであり、国会および関係行政庁に意見書を提出することを議決した。

意見書

意見書案第1号 家庭教育支援法の制定を求める意見書

原案可決

請願

請願第2号 野村町に温浴施設の存続を求める請願書

継続審査

議案に対する質疑がありました

補正予算

問 西予市消防署野村支署西側の復興団地、太田地区の災害公営住宅の入居までのスケジュール、入居条件等は

建設部長 令和2年3月頃から建設に着手予定であり、順次入居要件を整備する。災害発生から3年間は災害公営住宅での入居要件であり、それ以降は一般の方でも入居できる。家賃は、5年間で段階的に基準家賃に近づけていく取り組みを考えている。

条例制定

問 会計年度任用職員制度が令和2年度から導入されるが、該当する職員の数の推移は

総務企画部長 週20時間以上勤務の雇用保険に加入している非正規職員の数は、平成17年度に410名、平成31年度には526名で、14年間で116名増加している。

条例制定

問 会計年度任用職員制度導入の理由は

総務企画部長 合併後、かなりの事務事業が増えている。事務事業の需要の多様化に対応して、能率的かつ適正な運営、推進のためには、現在の臨時・非常勤職員の処遇の改善、職に応じた適正な任用の確保が必要になってくる。

条例改正

問 あけはまシーサイドサンパーク株式会社に委託する新施設の独立採算に向けての方針は

産業部長 経営陣の刷新、職員教育も実践していただいております。今後は、夢と希望をもった新施設として生まれ変わると信じている。

条例制定

問 せいよチャレンジ・スペース事業で独立採算が取れるような体制整備は

福祉事務所長 今回、計画の一部を変更し、パン製造設備を設置する。パンを製造することで、市内の保育所等に確実な販路があり、安定的な収入と雇用が確保できる。この施設を三瓶町の地域共生社会の拠点施設として、様々な活動に利用していきたい。



明浜観光交流拠点施設完成予想図

A

まちづくり推進課

3 高校が魅力化合同プロジェクトを立ち上げて事業を展開。平成29年度から情報共有や連携のため西予市も参画している。情報共有をする中で、学校側から公営塾開設についての要望を受け、生徒数の確保に努めることも、人口流出の抑制や移住定住促進につなげるため、来年度からの公営塾開設を目指す。

Q

高校魅力化事業 今後の取り組み方針は 198万円

A

総務課

会計年度任用職員の任用形態をフルタイムとパートタイムに分け、支給する給与、手当、または報酬等に関して定めるものである。その職種に応じて正規職員の給料表を用い、前歴等により加算される号級格付に基づき給与または報酬となる。

Q

西予市会計年度任用職員制度 導入 その内容は

総務

常任委員会での Q&A

Q A

A

財政課

大規模な修繕が計画的に行われており、その財源の一部として財政課が所管する基金を充当したものであり、通常の委託料への充当ではない。

Q

地域振興基金繰入金 城川堆肥センター運営事業1000万円 8000円は、何のためか

A

消防総務課

チェンソー103台、各詰所に1台配備。トランシーバーは420台、各部4台、幹部に1台ずつ、その他本部・方面隊に必要な数としている。

Q

救助活動を行うための資器材等の購入 消防団に配備するチェンソー及びトランシーバーの数量は

A

危機管理課

施設自体の運営は指定管理者が、現地対策本部に関しては、三瓶支所総務課が指揮をとることになるため、運営訓練も含めて、三瓶支所総務課で行うこととしている。

Q

西予市地域共生型交流拠点施設に地震津波災害時の三瓶支所現地対策本部 管理運営はどっか



給食センター建設予定地（野村中学校グラウンド）

消防署野村支署の改築に伴う移転場所、現在の野村支署の西側で、災害公営住宅建設予定地に隣接する場所を視察。進入路拡張に訓練塔を撤去する必要があると、代わりに必要施設が必要であるとの事であった。被災したせいよ東学校給食センターの再建場所となった野村中学校相撲場近くを視察し、建設する建物や駐車場について説明を受け、駐車場に対して、サッカーボール等が車を傷つける可能性について言及し、改善を要望した。

視察

所管事務調査

野村復興団地・学校給食センター建設予定地

令和元年 第3回西予市議会定例会 議決結果表

(令和元年9月2日～9月20日現在のもの)

議案番号	件名	議決年月日	議決結果	議案番号	件名	議決年月日	議決結果
議案第131号	野村復興住宅団地用地の取得について	9月2日	原案可決	議案第152号	令和元年度西予市野村介護老人保健施設事業会計補正予算(第2号)	9月20日	原案可決
議案第132号	西予市地域共生型交流拠点施設の設置及び管理に関する条例制定について	9月20日	原案可決	諮問第9号	人権擁護委員候補者の推薦について	9月2日	原案同意
議案第133号	西予市明浜観光交流拠点施設の設置及び管理に関する条例制定について	9月20日	原案可決	承認第5号	専決処分第5号の承認を求めることについて	9月2日	原案同意
議案第134号	西予市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例制定について	9月20日	原案可決	報告第8号	平成30年度西予市一般会計継続費精算報告について	9月2日	報告
議案第135号	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例制定について	9月20日	原案可決	報告第9号	平成30年度健全化判断比率の報告について	9月2日	報告
議案第136号	西予市税条例の一部を改正する条例制定について	9月20日	原案可決	報告第10号	平成30年度資金不足比率の報告について	9月2日	報告
議案第137号	西予市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例制定について	9月20日	原案可決	報告第11号	西予市土地開発公社の経営状況について	9月2日	報告
議案第138号	西予市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	9月20日	原案可決	報告第12号	株式会社野村町地域振興センターの経営状況について	9月2日	報告
議案第139号	西予市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	9月20日	原案可決	報告第13号	株式会社エフシーの経営状況について	9月2日	報告
議案第140号	西予市水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例制定について	9月20日	原案可決	報告第14号	株式会社城川ファクトリーの経営状況について	9月2日	報告
議案第141号	市道路線の廃止について	9月20日	原案可決	報告第15号	株式会社どんぶり館の経営状況について	9月2日	報告
議案第142号	市道路線の認定について	9月20日	原案可決	報告第16号	あけはまシーサイドサンパーク株式会社の経営状況について	9月2日	報告
議案第143号	令和元年度西予市一般会計補正予算(第2号)	9月20日	原案可決	報告第17号	株式会社グリーンヒルの経営状況について	9月2日	報告
議案第144号	令和元年度西予市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算(第1号)	9月20日	原案可決	報告第18号	一般財団法人宇和文化会館の経営状況について	9月2日	報告
議案第145号	令和元年度西予市育英会奨学資金貸付特別会計補正予算(第1号)	9月20日	原案可決	報告第19号	西予CATV株式会社の経営状況について	9月2日	報告
議案第146号	令和元年度西予市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	9月20日	原案可決	請願第1号	山田業師巨石の保存を求める請願書	9月20日	採択
議案第147号	令和元年度西予市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	9月20日	原案可決	請願第2号	野村町に温浴施設の存続を求める請願書	9月20日	継続審査
議案第148号	令和元年度西予市介護保険特別会計補正予算(第2号)	9月20日	原案可決	陳情第3号	愛媛県道29号地方道宇和野村線(西予市野村町鎌田から西区間)におけるトンネル開設の促進について	9月20日	採択
議案第149号	令和元年度西予市農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	9月20日	原案可決	陳情第4号	「家庭教育支援法」の制定を求める意見書について	9月20日	採択
議案第150号	令和元年度西予市公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	9月20日	原案可決	意見書案第1号	家庭教育支援法の制定を求める意見書	9月20日	原案可決
議案第151号	令和元年度西予市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	9月20日	原案可決	発議第6号	西予市決算審査特別委員会の設置について	9月2日	原案可決

※9月21日～10月10日の結果については次号に掲載します。

表決結果

賛否の別れた議案です。そのほかの議案については、全会一致にて可決。

番号	件名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	議決結果	
議案第131号	野村復興住宅団地用地の取得について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

(○：賛成 ×：反対 欠：欠席 除：除斥)

※議長は採決には加わりません。

厚生 常任委員会でのQ&A



Q 西予市地域共生型交流拠点施設「せいよチャレンジ・スペース整備事業」補正予算の事業内容は

A 福祉課
パン製造施設を整備するもので、1日の製造個数は100から200個の予定である。1カ月のパンの売り上げを35万円程度、販売先については、まずは保育園に給食として供給し、軌道にのったら販路を広げていきたい。
実際に作業される障がい者の方へ支払う1か月の工賃は、4万5000円程度と見込んでいる。

Q 10月からの幼児教育・保育の無償化について保護者への周知方法及び今後のスケジュールは

A 子育て支援課
8月初旬に保護者へ説明をしている。保育園、幼稚園に通っていない方もおられるため、周知の徹底に努めたい。

Q 昨年被災した明浜地区の学童保育施設再開の見通しは

A 子育て支援課
おれんじクラブは、依津集落総合施設の2階で学童保育を実施している。崩落した裏山の復旧工事が中々進んでいないという状況があり、地元や保護者の方々、中学校と協議をして再開に向けてどのような形で進むのがよいのか改めて検討している。

Q 外国人材活用推進事業173万8000円は

A 医療対策室
技能実習生2名を雇用するための準備に必要となる受け入れ調整のコーディネート料や生活支援員の報奨費、旅費、パンフレット作成委託料などである。これらは、つくし苑で雇用する技能実習生に対する費用であるが今後、市全体で働いている外国人労働者にも支援を広げていきたい。
相談窓口や受入れ事業所の連携会議等のソフト事業の予算も一部含んでおり、庁内でも関係部署と連携して進めていく。

産業建設 常任委員会でのQ&A



Q 明浜観光交流拠点施設の設置及び管理（ジオリゾート）入り込み客数の見込みは

A 経済振興課
シーサイド全体で年間実績7万人、7万5000人程度、民宿故郷には2000人弱、3000人強の宿泊客があり、同規模程度の入り込み客数を維持することを見込んでいる。

Q 三瓶市道朝立14・15・55号線道路維持修繕費舗装内容や耐用年数は

A 建設課
舗装の耐用年数は10年を見越しており、排水性、耐用年数、路面の乾燥の速さ、終末の水路をどこに繋げるかなどふまえた中で、測量設計を委託して検討していく。

Q ジオリゾート 温浴施設に海水を使うことの試算は

A 経済振興課
海水を13トン、上水を32トンの合計1日当たり45トンを使用する見込みで、海水を使用する場合、浄化槽に流入する量が減ることによって浄化槽の設置費用が約570万円安くなる。保守管理料についても年間約13万円安くなる試算である。

Q 災害公営住宅整備事業 2億7989万円 内容は

A 建設課
建築工事費並びに実施設計料と工事監理料を増額する経費であり、当初予算では30戸を想定していたが4月～5月の個別ヒアリングで被災された方の要望を伺った中で最終的に西予市消防署野村支署の西側に集合住宅3棟24戸、太田団地に木造戸建住宅17戸で計41戸を建てるように計画している。

視察 所管事務調査
西予市地域共生型交流拠点施設建設予定地



西予市地域共生型交流拠点施設建設予定地(三瓶)

この施設は3つのスペースをあわせ持ち、オープンスペースでは地元農産物を加工した商品の販売など一次産業の振興を図る。
作業スペースでは障がい者等がパン製造を行い、誰もが活躍できる就労の場を提供し、雇用の創出を図る。
地域交流スペースでは健康器具を設置し地域や年齢など関係なく参加できる運動を通じたイベントで市内外の人々の交流を図る。
以上のように開館されれば地域の新たな拠点として期待されている。

視察 所管事務調査

シルク博物館



繰糸（繭から糸を繰る）の工程

全国5施設のうち、西日本で唯一の施設であり、生糸を生産しているシルク博物館の工場を視察した。
市内農家から搬入された繭を手作業により、ゆっくりと丁寧に繰糸した生糸は白楕のような気品ある光沢と柔らかな風合いの「伊予（いよ）生糸（いと）」として主に西陣へ出荷されている。また、過去にはエリザベス女王の戴冠式のドレスや伊勢神宮式年遷宮の御神宝にも献納されている貴重な生糸です。現在、繰糸工が1名となり技術の継承が危ぶまれている。
西予市の誇りである蚕糸業の伝統・産業を守り繁栄させることが重要だと感じた。



加藤 美香

会計年度任用職員 制度について

総務企画部長 令和2年度から臨時・非常勤・嘱託職員は会計年度任用職員へ移行する

総務企画部長 導入の目的は、人口減少対策である。近い将来、人口減少を起因とする様々な課題が押し寄せてくる。課題に直面する前に、地域も行政も、それに立ち向かうことのできる体制づくりが大切であると考えている。

問 小規模多機能自治センター導入の目的と概要は

総務企画部長 導入の目的は、人口減少対策である。近い将来、人口減少を起因とする様々な課題が押し寄せてくる。課題に直面する前に、地域も行政も、それに立ち向かうことのできる体制づくりが大切であると考えている。

問 会計年度任用職員制度導入の目的と概要は

総務企画部長 西予市の臨時・非常勤・嘱託職員の数は、令和元年7月1日現在で総数728名であり、全職員の約4割にあたる。任用根拠の全国的な統一化や職員の処遇改善を目的に、会計年度任用職員制度が創設された。



井関 陽一

災害公営・自立再建住宅の 進捗状況は

建設部長 太田地区と西予市消防署野村支署西側で



災害公営住宅建設予定地（太田地区）

退居期限までに住居の確保が困難である世帯への対応については、中村知事が、山本順三防災担当大臣へ仮設住宅供与期間の延長を強く要請されたところでもあり、県内各地と連携し、国へ仮設住宅の供与期間の延長について協議を進めている。

問 仮設住宅からの退居準備は

建設部長 災害公営住宅及び自立再建される方の土地造成等の進捗状況は、野村町太田地区に戸建ての災害公営住宅17戸分、西予市消防署野村支署西側に集合型の災害公営住宅24戸分、及び自立再建される方のため、定期借地14戸分の整備を進めている。

太田地区の状況は、太田団地の古い公営住宅の解体工事を実施中で、令和2年3月に、戸建て住宅の建築に着手予定である。消防野村支署西側については、敷地造成工事の入札を9月17日に予定しており、集合型の災害公営住宅についても、令和2年3月頃に着工する予定。

問 貝吹地区の土砂崩落による天然ダムの可能性と対策は

建設部長 県道宇和野村線栗木地区の地すべりは広範囲となっており、大規模な地震等で土砂が崩落し、河川にまで流入するような場合には、大きな影響が出るのではないかと心配している。

現在、道路管理者である愛媛県が災害箇所上部の土の塊を取り除いた後、下部の対策工事を実施し、1日も早く通行可能な状態にすることを目指している。これにより、崩落対策が進んでいくと思われる。

問 野村町の河川整備に対する市の考えは

総務企画部長 肱川水系河川整備計画変更原案が、7月23日に公表され、8月2日に野村町で説明会が開催されたところである。

原案では、野村大橋右岸側について、約30メートルにわたり引き堤を行い、上流部分については、大橋から約600メートルにわたり、両側岸高さ1メートルの特殊堤を築堤する計画となっている。

現在、愛媛大学、東京大学との連携のもと、5月から継続して話し合



小規模多機能自治センターの参考となる雲南市波多マーケット。多くの地域住民で賑わう。（波多交流センターフェイスブックより）

3名体制から、1名増員し、4名体制で臨みたいと考えている。増員する1名は、地域が任用する職員として、主に地域づくりの事務局機能を担っていただきたいと考えている。令和4年度の運用開始を目指して進めていく。

問 部落差別解消推進法が施行されてからの取り組みは

人権対策と人権教育の窓口一本化の考えは

市長 この法律は、同和問題の解決を大きく前進させるものと認識している。



野村大橋右岸

いをして野村復興まちづくりデザインワークショップと8月30日に設立された野村地区河川整備促進協議会の2組織がある。市としては、住民の生命と財産を守ることに、行政の責務であり、安全でかつ、住民意向を反映させた肱川水系河川整備計画となるように、全力で愛媛県への働きかけを進めている。

- ◎ 生産年齢人口の減少について
- ◎ 国政選挙について
- ◎ 市長選の来期出馬について

部落差別は許さないという強い意志のもと、法律の趣旨を踏まえ、規定されている相談体制の充実、教育・啓発などの取組について、国や県と連携し、引き続き積極的に、具体的に推進していきたい。

副市長 窓口統合など組織改編については、近隣自治体の状況等もふまえ、関係部局と協議を行い、市の組織機構検討委員会等を経て、令和2年度を目標に検討する。



公益財団法人人権教育啓発推進センター発行のパンフレット

議員のつぶやき

「住みやすい町 西予市をめざして」



宇都宮 久見子

ジオパーク再認定へ 向けての取り組みは

総務企画部長 活動として防災・減災教育にも取り組み、さらなる持続可能なジオパークを目指す

問 建設予定のジオミュージアム△の概要は

答 建設予定のジオミュージアム△の概要は、ジオパークの学習拠点施設と位置づけている西予市城川地質館は老朽化とともに、立地場所

問 平成29年の再認定の講評と今後の対策、令和3年の再認定へ向けての取り組みは

答 平成29年の再認定の講評は、地域に分散したジオパークの見所を束ねるテーマとストーリーは構築されているものの、関係者との共有が進んでいないといった指摘があった。審査結果報告書をもとに、ストーリーや推進体制、サイトの保全、有形無形文化遺産の整備、ジオパーク活動への参加の広がりなどを15項目に整理し、4年間のアクションプランを作成し、それに基づき活動を行っている。



ジオパークの推進を（ジオボロシャツ着用での本会議）

問 展示内容も含め様々な課題を抱えているため、城川支所に隣接する社会教育施設総合センターしろかわを取り壊した跡地に建設予定である。博物館の機能だけでなく市民や来訪者等が交流できるジオパークの拠点施設として機能強化を図る。展示については、写真やグラフィック、映像等を用いて、ビジュアルでわかりやすい展示方法や休息や情報収集などに活用できるエリアもある。単にミュージアム展示だけでなくコミュニケーション施設としても機能する施設にしたい。

議員のつぶやき
初めての献血とドナー登録をしました！

その他の質問
◎ 消費税について

これらの事例を参考にしながら今年度中に制度設計を行い、令和2年4月から実施できるよう進めていく。

生活福祉部長 愛媛県内で、骨髄移植等ドナーの助成制度を導入しているのは20市町のうち8市で、制度内容は、ドナーの休業による経済的負担の軽減を目的とし、1回の提供で10万円を助成する自治体や、上限14万円を1日2万円を入院日数に乗じて助成する自治体、またそれに加え就業している事業所にも休業補償を助成する自治体など様々である。

問 骨髄等ドナー登録の普及のためにも当市でも助成制度を行うべきではないか

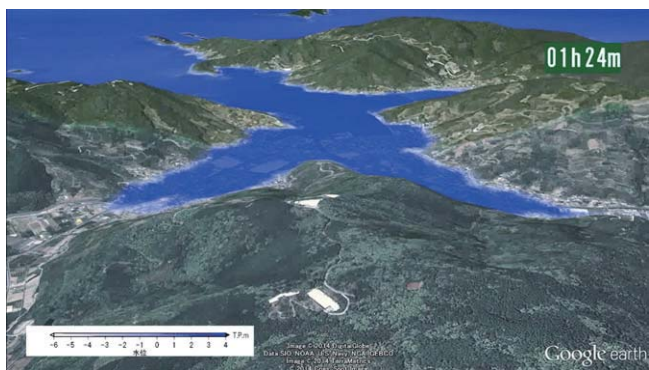
議員のつぶやき
災害は忘れた頃にやってくる

その他の質問
◎ 近隣市町との災害支援協定は
◎ 自主防災組織との連携・協力は

医療介護部長 傷病者へは救護所、救護病院等、症状に合った医療施設で受診して頂き、在宅療養中の方には共助・公助の体制づくりによる迅速な施設への搬送が必要で、その体制づくりを進めていく。

問 発災直後の医療対策は

協力機関と共に、避難支援に全力で取り組むこととしている。平時の取組として、市役所内の業務体制を見直し、名簿の作成と、より多くの対象の方が名簿情報の事前提供に同意をいただくよう取り組んでいく。その情報を基に、各地域において区役員や自主防災組織、消防団、民生委員・児童委員のみなさんと情報を共有し具体的な避難方法について話し合っていたきたい。



西予市ホームページの地区別津波浸水想定動画より
(画像は三瓶地区のもの)

福祉事務所長



中村 一雅

南海トラフ地震を 想定した防災計画

自力避難が困難な避難行動要支援者の名簿作成と名簿情報事前提供への同意を求めている

問 南海トラフ地震に対する国の指針を受けての西予市の対策は

答 中央防災会議が作成する防災基本計画に基づいて、愛媛県地域防災計画との連携も図りながら本市における地震防災対策・津波防災対策の推進をしている。西予市地域防災計画については、昨年豪雨災害の教訓や災害対応の検討を踏まえ、今年度全面改訂をする予定である。

問 想定される被害とその地域は

答 愛媛県を一つにするような広域的な常備消防になれば災害状況を一元的に把握し、応援の要否判断や受援体制の早期確立が図られることは大きなメリットであるが、広域化は進んでいない。現時点では、通信指令業務の共同運用について南予5地区の消防本部で調査検討をしており、今年度中に結論がでると考えている。

問 今後常備消防が広域化された場合のメリットは

答 マグニチュード9クラスの陸側を震源域に冬の夕方から深夜に発生した場合、死者1351名、建物の全壊棟数1万6719棟と甚大な被害が想定されている。

消防長 愛媛県を一つにするような常備消防が広域化された場合のメリットは

問 自力避難が困難な高齢者世帯や障がい者世帯等への支援策は

答 市では自力避難が困難な方々の把握に努めて避難行動要支援者名簿の作成をしているが、この名簿を事前に関係者に対して開示することに同意を得ている方が21.5%に留まっており、大変少ない。大規模災害が発生した場合は、要支援者名簿を基に、地域の避難支援

福祉事務所長 市では自力避難が困難な方々の把握に努めて避難行動要支援者名簿の作成をしているが、この名簿を事前に関係者に対して開示することに同意を得ている方が21.5%に留まっており、大変少ない。

大規模災害が発生した場合は、要支援者名簿を基に、地域の避難支援

洞爺湖・有珠山世界ジオパークでは、ジオガイドから火山活動により形成された地質や自然や縄文文化の遺跡について説明を受けました。

姉妹市町の黒松内町では、プナの北限である地域のプナセンターと、特産物手づくり加工センターと、ヴェールの視察を行い、豪雨災害支援に対してのお礼を兼ねて表敬訪問し、町長をはじめ、議長・副町長・教育長さんたちと親睦を深めました。



洞爺湖・有珠山世界ジオパーク

千歳市では、タブレット端末や電子黒板を使用したICTを活用した教育を視察しました。

厚真町では、北海道胆振東部地震により未だに山肌を露出させている被災地にて、災害ボランティアセンターのオーブンジャパンの方より説明を受けました。

視察内容

日程及び視察先

令和元年7月29日～31日に北海道千歳市、厚真町、洞爺湖・有珠山世界ジオパーク、黒松内町を視察しました。

ICTを活用した教育に関しては、当市も、電子黒板の導入はすでにされている所もあり、タブレット端末導入も含めて活用に対して検討も必要です。

地震災害に対しては、とにかく避難に対する知識と訓練が必要です。同じ被災地として避難の重要性を伝えていく事が大切であると感じました。

黒松内町は、議場に西予市の旗を掲げて頂くなど、大切に頂いています。今後益々親密な関係を保ちたいと強く思いました。

これから

議会レポート
被災地厚真町などを視察
総務常任委員会



源 正樹

乳児用液体ミルクの備蓄は

総務企画部長 活用も含め、備蓄について検討する
家庭用として効果的であり、啓発を行いたい



おでかけ用ほ乳ボトルと液体ミルク

問 災害に備えて、乳児用液体ミルクを備蓄すべきではないか

総務企画部長 今年3月に店頭販売が開始され、子育て世代の負担軽減と災害時の緊急物資として役立つと期待されている。

しかし、賞味期限が1年と短く、行政備蓄としては適していないとの考えで、購入の検討は行っていません。

現在は、通常とアレルギー対応の粉ミルクを備蓄しているが、今後、液体ミルクの活用も含めて、検討を行いたい。

行政備蓄としては、まだまだ課題があるが、家庭内備蓄としては非常に効果的であり、啓発を行いたい。

問 大規模災害発生時に救護所が設置されるが、内容と目的は

医療介護部長 市内で大規模な災害が発生した場合に、状況を総合的に勘案し、設置する。

救護所では、※トリアージや軽症患者への応急処置を行う。大規模災害発生直後の混乱時に、救護病院へ傷病者が殺到することによる医療機能の混乱を防止することも目的の一つである。

今後、市が実施する防災訓練等に合わせ、救護所の設置訓練も実施し、より実効性のあるものにしていきたい。

問 人口減少を緩やかにすることに最大限取り組みと同時に、減少を見越して、それに対応できるまちづくりをするべきではないか

市長 少子化等を起因とした人口減少は、避けられるものではない。平成27年度に、西予市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少社会の克服に向けた政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策を示し、推進している。



渋川市議会議場にて

千代田区では、特殊詐欺被害防止のために設置されている自動通話録音機について、研修を行いました。

自動録音していることを知らせることで、不審な電話がかかってきても直ぐに相手側が電話を切るなど、被害防止の一助となりました。

視察内容

日程及び視察先

令和元年7月23日～24日に、東京都千代田区、群馬県渋川市を視察しました。

議会レポート
特殊詐欺防止と乳児用液体ミルクについて視察
厚生常任委員会

議員のつぎやき
持続可能なまちづくりを

2004年	47,034人
2014年	41,173人
2019年	37,717人
2040年	25,082人
2060年	16,714人

西予市の人口推移と
将来人口推計（基準値）
出典：西予市人口ビジョン

人口減少と人口構造の変化により、集落の消滅、社会保障費の増加、税収減による財政の悪化等、様々な分野へ大きな影響が生じる。

それに対応するため、小規模多機能自治体の推進、三セクの改革、外国人財の雇用促進、愛媛大学地域協働センターの誘致などを行っている。

既存の価値観や前例にとらわれず、チャレンジ精神を持ち、各種分野において、独創的で質の高い政策を推進し、人口減少に対応したまちづくりを行う。

これから

高齢者を狙った特殊詐欺は未だに続いており、自動通話録音機を設置することで詐欺被害が抑制されることから、設置について検討が必要であると感じました。

液体ミルクは、手間が不要でライフレインが使えない場合でも使用可能です。粉ミルクと比較して、価格が高く、賞味期限が短いことが欠点ですが、南海トラフ地震等の災害に備えるため、導入すべきだと考えます。

※トリアージ：大事故・災害などで同時に多くの患者が出た時に、手当の緊急度により優先順位をつけること。

議会レポート

茨城県農林振興公社などを視察

産業建設常任委員会

日程及び視察先

令和元年7月30日～8月1日に厚生労働省、茨城県神栖市、かずみがうら市、水戸市を視察しました。

視察内容

厚生労働省では、全国の水道事業の現状と課題について説明を受け、西予市の水道事業の課題等について意見交換を行いました。

神栖市では、風力発電について企画部政策企画課から説明を受けました。神栖市は風力が安定しており、送配電線網が整備されていて、現在15施設45基（茨城県内総数63基）の大型風力発電施設が稼働しているとのことでした。

水戸市では、公益社団法人茨城県農林振興公社を視察し、担い手支援部での就農相談員の設置、就農相談会の開催や出展、県立農大等の学生対象の就農啓発活動、茨城就農コンシエルの開設と運営等の新規就農者の確保・育成活動について、具体的な説明を受けました。

かずみがうら市では、サイクリング事業を核に、地域資源を活用した観光、6次産業化事業推進する事業

運営会社としての設立した、(株)かずみがうら未来づくりカンパニーを拠点に、魅力を発信しているとの説明を受けました。

これから

西予市でも課題山積の水道事業に関しては、5町それぞれの上水道、簡易水道事業の現状を更に精査しながら、地域のニーズを踏まえ、住民サービスを第一に考えていく必要があると感じました。

就農者の確保と育成については、西予市の自然環境や風土、栽培可能な作物等を十分に吟味し、啓発・支援活動を広げていき、JAや地域グループ等との更なる連携協力が不可欠と感じました。



水道事業についての意見交換

議会レポート

豪雨災害への防災体制と復旧・復興

西予市地域防災体制特別委員会

日程及び視察先

令和元年8月26日～27日に広島県広島市と福岡県朝倉市を視察しました。

視察内容

広島市では平成26年8月に豪雨災害があり、安佐北区・安佐南区では山腹崩壊による土石流が発生し、死者77名、家屋の全半壊396件、甚大な被害が発生しました。その被災状況とともに当時の防災体制や、その後の復旧・復興について詳細な説明を受けました。その後、安佐南区の災害復旧現場へ行き、状況を見るときにも慰霊碑に手を合わせて参りました。

朝倉市では平成29年7月に九州北部豪雨災害に見舞われ、河川の氾濫による大量の流木と土砂の流出、巨石の流出により多数の家屋崩壊と33名の尊い命が失われました。初動対応から、その後の復旧について説明を受けました。

これから

広島市・朝倉市ともに、発災時の初動対応の大切さと、復旧・復興においては現状復旧ではなく、改良復旧に取り組み姿勢に感銘を受けました。

西予市においても、今後の防災体制を整える中で、特に初動時の対応が迅速かつスムーズにできるような復興とともに対策を講じていかねばなりません。特に、発災直後の緊急避難については自主防災組織や消防団、自治会など、地元に着目している組織の重要性が問われています。

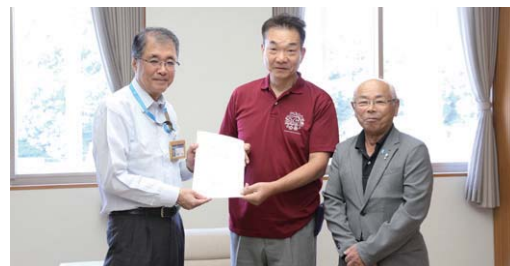


民間の復興交流館（広島市）

市民と議会との意見交換会を開催します

西予市議会では「開かれた議会」を目指し、議会活動の報告と、市民の皆さんとの意見交換を行うため、今任期4年の間に各旧小学校区で『市民と議会との意見交換会』を開催するよう計画・実施しています。これまでに18地区で開催し、地域課題、議会・市政に対する貴重なご意見等をうかがい、意見交換してきました。

今回は、下記6地区で開催します。地区内外を問いませんので、ぜひ多くの方にご参加いただき、意見交換できることを期待しています。



管家市長への提言書提出の様子。令和元年5月に開催した意見交換会で市民の皆さんのご意見を提言書にまとめています。(令和元年9月25日)

旧二木生小学校区会場(三瓶)
日時 令和元年11月8日(金)
午後7時から
会場 北公民館

横林地区会場(野村)
日時 令和元年11月13日(水)
午後7時から
会場 横林公民館

旧蔵貴小学校区会場(三瓶)
日時 令和元年11月14日(木)
午後7時から
会場 南公民館

俵津地区会場(明浜)
日時 令和元年11月18日(月)
午後7時から
会場 俵津公民館

魚成地区会場(城川)
日時 令和元年11月18日(月)
午後7時から
会場 魚成公民館

宇和町小学校区会場(宇和)
日時 令和元年11月21日(木)
午後7時から
会場 教育保健センター4階

メールやお手紙などでの事前質問も受け付けておりますので、議会事務局までお問い合わせください。

議会レポート

移住定住推進・地域おこし協力隊 再生可能エネルギーと地域医療について

会派 ニッぽや

日程及び視察先

平成31年4月16日～20日に北海道利尻町、礼文町、稚内市を視察しました。

視察内容

利尻町では、ワンストップ窓口による相談対応と、ふるさと定住促進制度(住宅用土地の貸付など)により、平成27年から6件の移住実績をあげられていました。地域づくり協力隊では3名の方が定住されています。

礼文町では、移住する漁業者支援住宅2LDK63～70㎡を月額15000円にて9年目まで貸し出すなどの、漁業に特化した施策がなされていました。

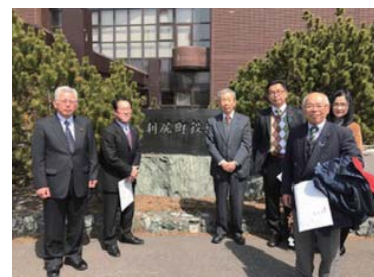
稚内市では、再生可能エネルギーについて、メガソーラー、風力発電、バイオマス発電に取り組みされており、「人と地球にやさしいまち」をまちづくりの基本とされ、自然エネルギーへの取り組みが行われています。

また、地域医療を守る観点からは、稚内市開業医誘致条例を制定され、開業を応援し、市全体として地域医療の体制を整える取り組みとして行われていました。

これから

移住を推進するためには、住宅用土地の貸付について、土地開発公社を含めて検討する必要があると思います。ある職業に特化した奨励措置を行い、産業を盛り立てることも一案であると思います。

医師看護師不足は何処も同じですが、発想の転換で、開業を支援するという新しい取り組みも面白いのではないかと思います。



利尻町役場前にて



地元小学生が描いた西予市消防署明浜出張所の
オーバースライダーシャッター

令和元年9月18日、明浜支所落成記念式典が行われました。
この支所は南海トラフ巨大地震による津波被害を踏まえ、被害想定を基に海抜6・1メートルに位置する旧高山小学校跡地に建設されました。
玄関前中に耐震性貯水槽30tを設置し、緊急時の給水にも対応でき、屋上は避難場所（100人以上収容）として対応可能となるなど、事務機能だけでなくとどまらず消防防災機能・避難所機能・金融機関等を集約し、防災・備蓄倉庫も備えた、地域防災拠点としての役割を果たす支所となっています。

明浜支所落成記念式典

平成30年度 政務活動費収支報告

市では、議員の調査研究に必要な経費の一部として、議員一人あたり月額1万円を前払いで交付しており、年度末までに支出残高がある場合は返還しています。会派には、所属議員数に応じて支給しています。

研修費	議員(会派)が研修会を開催するために必要な経費、または団体等が開催する研修会への参加に要する経費
資料作成費	議員(会派)が行う活動に必要な資料の作成に要する経費
資料購入費	議員(会派)が行う活動に必要な資料等の購入に要する経費
事務所費	議員(会派)が行う活動に必要な事務所の設置及び管理に要する経費

※この他にも、調査研究費、広報費、広聴費、要請・陳情活動費、会議費、人件費があります。

(単位：円)

NO.	会派名または議員名	交付額	支出額	内 訳				返還額
				研修費	資料作成費	資料購入費	事務所費	
1	会派 こころざし (6名所属)	720,000	391,218	338,847		43,524	8,847	328,782
2	信宮 徹也	120,000	126,114	121,038		5,076		
3	宇都宮俊文	120,000	121,037	121,037				
4	中村 一雅	120,000	121,037	121,037				
5	河野 清一	120,000	140,917	140,917				
6	佐藤 恒夫	120,000	127,036	127,036				
7	山本 英明	120,000	129,516	129,516				
8	竹崎 幸仁	120,000	121,037	121,037				
9	小玉 忠重	120,000	142,916	142,916				
10	源 正樹	120,000	121,036	121,036				
11	菊池 純一	120,000	140,917	140,917				
12	兵頭 学	120,000	140,916	140,916				
13	宇都宮明宏	0	0					
14	森川 一義	120,000	94,088	37,064		57,024		25,912
15	藤井 朝廣	120,000	121,036	121,036				
16	酒井宇之吉	120,000	135,957	121,037	14,920			
合計		2,400,000	2,174,778	2,045,387	14,920	105,624	8,847	354,694



表紙に写真イラスト等大募集

採用者には
ジオの恵みを
進呈します

市民の皆さまに親しまれる市議会だよりにするため、また西予市の魅力を再認識するため、「西予市議会だより かけはし」の表紙に写真・イラスト等を募集します。

募集する写真・イラスト等のテーマ

- 西予市の魅力

募集上の条件

- お一人様3点までで、未発表・オリジナル作品に限ります。
- 被写体として人物や個人の所有物等が含まれる場合は、必ず被写体ご本人(未成年者の場合は保護者)又は所有者の承諾を得てください。
- データの場合は500万画素以上、印画紙の場合はA4サイズ以上でご提出ください。
- 採用作品の著作権は、市議会に帰属するものとします。
- 応募作品は原則返却いたしません。

選考方法

- 議会だより編集委員会で決定し、掲載します。
- 応募がない場合や、採用作品がない場合は、本委員会で撮影した写真を使用します。

応募方法

- 住所・氏名・連絡先・写真のタイトル・撮影場所・撮影日時をご記入のうえ、議会事務局へメール、もしくは郵送、持参してください。
- ※メールの場合は約7MBまでしか受信できませんのでご了承ください。

お問い合わせ

西予市議会事務局(議会だより編集委員会)
電話：0894-62-6413
メール：gikaijimu@city.seiyo.ehime.jp



あかまつ しおん
主将 赤松 汐音さん



新チームの練習風景

去る、8月20日から和歌山県で開催された、全国中学校総合体育大会において、宇和中学校女子ソフトボール部が見事に、全国ベスト8という偉業を達成し、西予市の名前を大いに全国にアピールしてくれました。

県大会では準優勝に終わりましたが、県大会終了後、更に練習を重ねて部員同士が団結の絆を深め、迎えた四国大会では、主将の赤松さんを筆頭に3年生8人を中心に培ってきた自慢のチームワーク、エース沖野さんの素晴らしいピッチングとバックの堅い守備、チャンスでの好球必打で、並み入る強豪校を撃破して、見事に初優勝を飾るとともに、全国大会への切符を手に入れました。

全国大会でも、2回戦で、強豪の舞岡中学校（神奈川県）に勝ち、見事にベスト8に進出しました。ベスト4をかけた準々決勝戦では、惜しくも、全国優勝した神田女学園中学校（東京都）に惜敗しましたが、全国ベスト8の称号を手中に収めての凱旋となりました。

素晴らしい選手たちの大活躍に、心から拍手を送ります。

《主将 赤松汐音さんのコメント》

私は部活動を通じて人との「つながり」を一番強く実感することができました。チームメイトや先輩、後輩、保護者、監督、先生方や地域の方に支えられながら成長することができたからこそ、全国で一勝することができたと思います。

本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

編集後記

今号も無事出版にこぎつきました。編集の仕事は意外に時間と労力がかかります。1ページ1ページできるだけわかりやすく、かつ簡潔にまとめるよう委員全員で努力いたしました。今後も行政と市民との「かけはし」となるよう活発な議会活動を行い、議会だよりにより記事掲載してまいります。



◎編集委員

編集委員長 信宮 徹也
副委員長 山本 英明
委員 宇都宮久見子
宇都宮俊文

源 中村 一雅
井関 陽一